

社会福祉法人 創文会  
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



# Topia

第51号



〒693-0014  
出雲市武志町 693-6  
Tel: 0853-2 3-2 7 2 0  
Fax: 0853-2 3-2 7 2 1  
E-mail shien@heartpia.or.jp  
ホームページ  
<http://www.heartpia.or.jp>

<発行所>  
相談支援事業所  
ハートピア出雲

## 「第53回全国ろうあ者体育大会 in 鳥取・島根」が開催されました！

昨年の9月20日～22日まで「第53回全国ろうあ者体育大会 in 鳥取・島根」が鳥取県と島根県の両県で開催されました。20日、米子市文化ホールで開会式典を行いました。会場には行政関係、競技関係、選手、一般人など多くの人が集まり、下垣鳥取県実行委員長と廣戸島根県実行委員長の歓迎のこたば、石野全日本ろうあ連盟理事長、平井鳥取県知事などのあいさつをいただきました。島根県ろうあ連盟卓球の山本選手と鳥取県聴覚障害者協会バドミントン部の田中選手と2人で選手宣誓しました。後は、アトラクションで、社会福祉法人いわみ福祉会芸能クラブの石見神楽と鳥取城北高校応援チア部の応援をいただき、大変盛り上がりました。



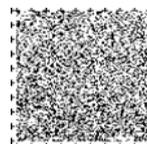
21日と22日の2日間、天気が悪い中、11競技に全国から約1300人が集まりました。鳥取市はバドミントン競技とバスケットボール競技、北栄町、倉吉市はソフトボール競技、米子市はサッカー競技とバレーボール競技、松江市は卓球競技とテニス競技、出雲市は野球競技と陸上競技とボウリング競技とフットサルオープン競技を行いました。しかし、雨天と台風17号が大変心配で、ソフトボール競技だけ中止でした。

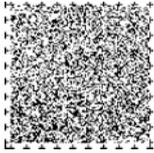
野球競技は斐川公園野球場と出雲ドームの2会場で行う予定でした

2ページにつづく

### もくじ

- 全国ろうあ者体育大会の報告・・・・・・・・・・1 p～2 p
- ボッチャ審判養成講習会に参加・・・・・・・・・・3 p
- めざせ！女子カアップ～佐藤真智子さん～・・・・・・・・4 p





が、雨天のため、斐川公園野球場を止め、全試合を出雲ドームの会場だけ（大会初）で行いました。1日目は、夜9時半過ぎに試合が終了しました。2日目も、出雲ドームで熱戦が繰り広げられました。その後、丸山島根県知事が出席され閉会式が行われました。

ボウリング競技は出雲会館センターボウルで開始式が行われました。石野全日本ろうあ連盟理事長、長岡出雲市長からあいさつをいただき、始球式でボールを投球されました。島根県の選手参加は男子5名、女子1名で一生懸命に力投しました。

県立浜山公園陸上競技場は、陸上競技大会で雨天に負けずに行いました。男女の36種目があり、全国から51名が「走・跳・投」に躍動しました。島根県の足立選手は100mと200mで優勝しました。

県立浜山公園体育館は、フットサルオープン競技として行いました。島根県での開催をきっかけに島根県チームを本年3月に結成し、7人にとって初体験で月1～2回練習してきました。埼玉県と2チームでしたが、特にESU(イースト島根ユナイテッド)というシニアのチームにも参加いただきました。しかし、島根県チームは負けましたが、熱戦が繰り広げられました。

松江市総合体育館は卓球競技で、島根県選手の参加は男子3名、女子1名、男子団体に出場し予選リーグで千葉、埼玉と対戦し敗れましたが、選手は得点を挙げるたびにガッツポーズを見せ、熱い声援が飛び盛り上がりました。

全国ろうあ者体育大会での鳥取と鳥根の共催は初めてでした。一番不安は、要員とボランティア人数が少ないことでした。最後まで要員とボランティアのみなさんにも一生懸命頑張ってください無事に成功して良かったです。

事務局長として、大会に向けて2年前から準備をしてきました。広告と協賛金の寄附金集めを活動したり、高等学校で手話の勉強会の開催と手話の普及についてのお願いしたり、行政廻りあいさつなど、大変忙しい毎日でした。各競技協会の審判員のみなさんから「ろう者の選手が頑張っているのを見て感動した」と言われてうれしかったです。

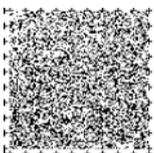
(文：第53回全国ろうあ者体育大会島根県実行委員会事務局長 ワークセンターフロンティア利用者：大瀧 浩司)

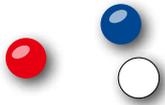


●ボウリング競技の開会式にて石野全日本ろうあ連盟理事長(左)と長岡出雲市長(右)による始球式

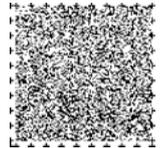


●熱い声援が飛び交い盛り上がる卓球競技





## ボッチャ審判養成講習会に参加しました。



ボッチャはハートピア出雲デイセンターの活動にも取り入れており、毎年行われているボッチャ大会にも参加しています。

日頃から行っているボッチャでも、細かいルールまでは知らずにプレーをしてきました。

ボッチャとはジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに赤・青のそれぞれ6球をいかに近づけられるかという球技です。カーリングのように、相手のボールを弾いたりして、自分のチームが優位になるような位置取りをする事も出来ますが、ボッチャの場合は得点的となるボールも弾いて動かすことが出来る為、カーリングとは一味違う戦略も楽しみの一つです。

公式ルールでは選手の障がい程度によるクラス分けがあります。全部でBC1、BC2、BC3、BC4、OP座位、OP立位の6クラスです。

「BC1」は車いす操作不可で四肢、体幹に重度の麻痺がある脳原性疾患のみのクラス。

「BC2」は上肢での車いす操作がある程度可能で脳原性疾患のみのクラス。

「BC3」は最も障がいの重たいクラスで競技アシスタントによるサポートにてランプを使用できるクラス。

「BC4」は筋ジストロフィーなど、BC1、BC2と同等の重度四肢機能障がいのある選手が行うクラス。

「OP座位」はBC1～BC4に該当せず、座って投球するクラス。車いすの使用の有無は問わない。

「OP立位」はBC1～BC4に該当せず、立って投球するクラス。片麻痺や下肢の骨関節疾患など。（OPクラスは日本独自のクラスです）

この6クラスに分かれて試合をしていきます。

ボッチャにも反則行為がいくつかあり、実際の試合で一番多い反則は『投球する際に足や車椅子が投球ラインをはみ出して投球していた』ということでした。この反則をした場合、自チームのボールが1球少なくなり、相手チームに1球追加になります。この反則は競技アシスタントや選手、またその他の道具や衣服が、投球ボックスのラインまたは外側の床に触れていて投球した場合にこの反則となります。ラインを踏んでいる、靴紐がラインに触れていても反則になる為、一番注意したいルールです。

審判を行う際に使用する道具は基本的に2つあり、一つはカラーインディケーター（指示板）という道具です。次に投球すべきサイド（赤か青か）を示す為に使用する色の付いたパドルです。

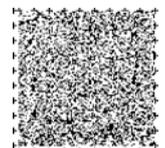
次はボールの距離を測定する為に使用する計測器具です。テープメジャーやコンパスはもちろんですが、他にもすき間ゲージや携帯ライトなどが使われます。すき間ゲージや携帯ライトはテープメジャーやコンパスでは測定できない時に使用します。その様な道具を使い正確にボールとの距離を測り得点を計算していきます。

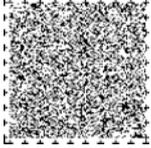
審判とは反則をいかに見極めるかが大切になってきます。ですが、審判一人ですべての反則行為を見極めるのは難しい為、副審と協力して試合を進めていきます。審判は全体の把握、副審はラインズマンと審判の補佐をします。

実際に審判を体験してみたところ、コート内の立ち位置が悪かったり、選手の投球動作に集中してしまい、全体が見えなくなってしまうことがありました。審判のコート内の立ち位置は選手の投球の邪魔にならない程度の距離で、尚且つ反則があった時にすぐにボールを止められる距離が望ましいとされています。

この講習会に参加して、よりボッチャの楽しさ、奥の深さを知ることが出来ました。今後、ハートピア出雲デイセンターでの活動でボッチャを行う時にこの知識を活かしていき、これからのボッチャ大会でも良い成績を残せるように、利用者の方々と頑張っていきます。

（文：ハートピア出雲デイセンター生活支援員 三角 俊介）





## わたしの仕事 その10 ~めさせ!女子力UP~ “これからも多くの人に演奏を届けたい” 佐藤真智子さん

私の楽器との出会いは、幼稚園の年長のころでした。

最初はオルガン、その後ピアノへと移行しました。私の記憶では約13年間ピアノと向き合ってきたと思います。

その後は、ピアノとも距離を置いていましたが、ハートピア出雲での音楽活動がきっかけでキーボードやピアニカで再スタートする事になりました。

音楽活動では村上先生と出会い、ここ数年、自宅でピアノの個人レッスンも受けています。

「ひだまりコンサート」では、皆と歌やピアニカ、ピアノ、楽器演奏をしていました。最近ではピアノで「ハートピアのうた」をステージ上で演奏をしました。

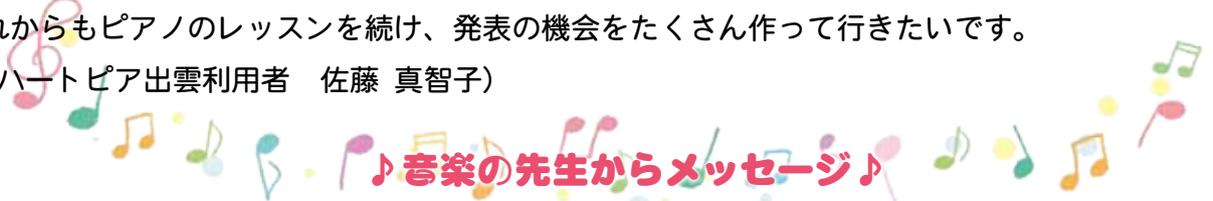
私はステージでの発表で緊張しないタイプなので、いつも通り、言われた通りに演奏が出来、おかげさまで素敵なステージを飾ることが出来ました。

これからもピアノのレッスンを続け、発表の機会をたくさん作って行きたいです。

(文：ハートピア出雲利用者 佐藤 真智子)



●ご自宅のピアノで個人レッスン中の佐藤さん



### ♪音楽の先生からメッセージ♪

私と真智子さんの出会いは、ハートピア出雲が開設された時からなのでもうすぐ20年になります。

いつも優しい笑顔で周りにいる人を和ませ、何か声をかけたくなる女性の印象でした。

一緒に活動していくといろいろな曲を知っておられ・・・「いえ！」知らない歌でも「いかにも知っている歌」の様に歌ってしまう不思議な力を持っておられる事に気付きました。

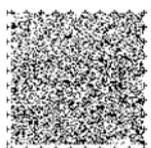


●「ひだまりコンサート」のステージにて  
(写真左は村上先生、右は佐藤さん)

障がいを抱える前には素晴らしいピアノの先生方にレッスンを受けておられ、その後もレッスンを再開しておられましたが、先生のご都合でレッスンが途切れてしまいました。そして今から1年半前に私に声がかかり、一緒にピアノを楽しんでいます。

現在もピアノ活動をしておられますが、「お世話になった病院でのお礼演奏をしたい！」という思いで練習に取り組んでいます。毎日の生活のハリになり、社会貢献となる演奏を目標にこれからも2人で仲良く頑張っていこうと思います。

(文：ハートピア出雲 音楽療法ボランティア 村上 滝子)



## 編集後記

◆ちよいと2000年の主な出来事をネットで調べてみた。シドニー五輪女子マラソンで高橋尚子さんが金メダル獲得。新紙幣2000円札の発行。イチローが野手として日本人初の大リーガーとなる。サザンオールスターズが「TSUNAMI」で日本レコード大賞受賞。家庭用ゲーム機「プレイステ2」発売。振り返るといろいろありましたが我々にとって身近な出来事としてはハートピア出雲が開所した年。早いもので今年で20周年を迎えることになった。開所から利用していた私も今は〇〇歳のオッサンに(笑)【編集長 米山】